

臓器略奪に反対し、  
生きた心臓を持った人間を死者と定義することに  
反対する イタリア国内協会

代表者  
Nerina Negrello

当協会は  
どの党派にも属していません  
どの利潤も追求していません

公共医療補助と随意の寄付金で運営されています

思想の自由 意見の自由 宗教の自由の 規範のために存在し  
意識と道義心を失った病人の保護と後見のために存在します

**あなたが知らされていないこと**

臓器移植（心臓・肝臓・肺・腸ECO）がおこなわれるのは皆さんが思われているような  
呼吸器を外せば死に直結する 昏睡状態の人 や 冷たく硬直した 遺体からでは  
ありません  
心肺が活動し 血液が巡り ピンク色でぬくもりをもった身体で 排尿し 足や手や  
胴体を動かすことのできる人間です  
そんな人間が 心臓が脈打つ中 メスで 切り開かれるのです

呼吸が止まる前に臓器が摘出されるのは論外です  
心臓が停止し呼吸が止まってから臓器の抽出を始めるべきだというのに実際は  
真逆なこと行われています  
臓器は意識 つまり 鎮痛剤や麻酔剤で 摘出される時の苦痛の反応をなくした人から  
摘出されています

Massimo Bonds 博士 L.D.PatChir.eProp.Clin.Univ.La Sapienza Roma  
"脳死は道義意識のない 非科学的 非社会的である"  
David W.Evans 博士 Fellow Commoner of Queen's College Cambridge  
"いかなる脳死も体内で血が生き流れている間は容認できるすべはない"  
"真になくなれた場合と 臨床上宣告された脳死との間には大きな違いがある"  
Robert D博士 James G. Fackler 博士は(Harvard Medical School Boston)宣言します  
"現行の臨床医学の手段として脳の全機能の不可逆的中止は容認できない"

Peter Singer 教授 Bioetica国際協会 会長 は宣言します  
"脳死が実際の死ではない 事を十分に理解する人はよき判断力を持ち合わせていま  
脳死はもちろん 便利な代替の手段ではありません  
臓器の配達を 明らかにするため提言します (congress di Cuba '96)

国際学術上の 熱い審議が展開しています  
しかしイタリアでは 尚検閲が続いています

## あなたが知るべき事実

Legge 91 dal 1 aprile 99が効力ある命令に対し規定しています

臓器移植の反対意思表示をしていないケース  
移植の宣伝  
組織、融資 輸出輸入について

L578/93 に加えDM 582/94にて 誤った“脳死”の判断と宣告を義務付けています

この法はMinistero della Sanita' (厚生省)がドナーや非ドナーの市民の名簿の作成の  
10の法令を伴った規定を公布することを想定しています。;

ASLは市民めいめいドナー、非ドナー に意思表示の明示のために  
どのように いつ 告示の書類が準備されるかを知らせるべきでしょう

そのような告示の後 ASLに返答していない人々を事務局はドナーとみなします。

注意が必要です！ 例の規定(ART5)によれば9歳以上がドナーに該当します；

履行しない政府は一方 仮の一時的な法令を公布しました (Decr 8 aprile 2000)  
法令は公的な書類やその精神において法に反し 非合法で違法の産物に門戸をあけ  
各種団体ではじまっています(ASL・病院 緊急病院 いくつかのコムーネ)  
我々はASL全て 厚生省に 警告しTARに上訴を提出しました

効力ある通達は一時的な命令の前段階です

- 1) 人としての権利  
ESの為 自筆宣言文で 臓器・組織移植に反対します(私達の提供するCARTA-VI
- 2) 明確でない契約に意義申し立てする両親の権利  
両親は病人に有利な実証的意向について除外者となっています  
——エセ定義には注意が必要となります
- 3) 異議申し立て記載のフォームもなく 臓器・組織の取立てをはかどらせるために  
同意させられるのです

医師が両親にドナーのサインを求めるのは違法でモラルからはずれています  
つまり“他人を提供する”のです  
非合法で批判されるべきなのは 脈打っている心臓について検視を実行するとみせ  
非ドナーから移植することです  
こういった医師は告発されるべきです  
移植を普及するため 宣伝を行う制度への警告

## 我々と共にできること

Legge 578/93廃止を切望します  
血液が体内を循環し 心臓が自動的に脈打つ中脳死の宣告をおしつけています  
安楽死 / 冷酷な国家

早急に 身体が生きている一方脳が機能をしていないことを信じない医師や市民へ  
良心を持った反対意見を伝える権利が紹介されることを切望します

Legge 91/99廃止を切望します  
市民を奪う非同意者の意見について  
正しい情報を切望します  
呼吸・並びに心臓と血液循環の停止20分後 組織のサンプリングを行う一方  
常に心臓が脈打つ中臓器移植を密に行うべきではありません

臓器提供意思カードはドナーが個人的にASLIに まさに脈打つ心臓を提供する  
決意を申告して価値があると切望します

ともかく イギリスでのケース同様 もしものときの家族の異議申し立てへの  
配慮もあわせて切望します

医師が非ドナー患者に対して信頼に足る診断をし、二者択一の治療を邪魔しながら  
呼吸し生きる 権利を 消去しないよう切望します  
心臓死協会や 移植協会が無防備な子供や若者を左右する学校へ 入り込まない様  
切望します  
移植による苦痛や重い病状。高い死亡率が生まれないことを切望する

生存における実施 人間畜殺のビジネス制度 合法・非合法の臓器取引結果の  
終焉を認めるよう切望します  
他国組織へのイタリアの臓器・細胞の輸出を認可する政府通達2.12.20004を  
強化した イタリアが国際科学審議に門戸を開き検閲を目的に置くことを  
切望します

### “ニセ 脳死を廃止するための国民投票を行う必要があります”

日本大学 ; 管理された低体温における脳の臨床学  
日本の神経外科学は 激しい血腫の20人の患者の内14人で拡散した大脳損傷を  
結合し広範な大脳の30-47分停止に虚血患者12人のうち6人を一般的な生活に  
連れ戻しました --口頭での意思伝達のできるまで充分回復して

いわゆる脳死の宣言は臨床医学を試みることなく殺人を成立させうる 或いは  
少なくとも尽力をつくさなかったり策略を模索するうち急がれたものです

YOSHIO WATANABE MD (心臓移植) JPN Heart J.Sept 1997

HAYASHI.N頭脳セラピー JPN Med July 6 1996

Lodovico Bergamini 博士 (docente di neurologia Torino 大学)

脳レントゲン写真に平らに写っていたとしても

つまり リズムが明白に足りていなくても

例えば不要な大人の内容或いは新生児の内容は平らな青写真を持つ事ができます

説明された多くの医師が公に脳死について非難の見解を表明しています

Prof. Dr. Nicola Dioguardi

Prof. Dr. Edoardo Storti

Prof. Dr. Paolo Puddu

Dr.a Maria Luisa Robbiati

Dr.Giuseppe Bertolini

Dr.a Stefania Dente

Dr.Dario Miedico

Dr.Paolo Bavastro

Prof.Giuseppe Sermonti

Dr.Dario Sepe

David J Hill

Cicero Galli Coimbra

## CARTA-VITA

自筆の申告 ID カード

NO. \_\_\_\_\_

病人の保護のため  
合法的立会いの下  
合法的医師の診断鑑定

CARTA-VITAと共に  
あなたを あなたの大切な人たちを  
守りましょう  
ID カードと一体の自筆申告書です。

CARTA-VITA(4ページ) 心臓が鼓動中の臓器移植を反対する5つのポイントと  
自身の体についての権利の明言を書式化しています  
もし更に後見に関してお知りになりたい場合は問い合わせ下さい。